

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-65	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
明治 117	論国 709	精選 論理国語		

1. 編修の基本方針

- 全ての内容を通して、教育基本法第2条各号に示された目標及び、高等学校学習指導要領に示された目標を達成できるよう教材を選択し、配列した。その中で特徴的な教材については「2. 対照表」に示した。
- 「言葉の力を育み、最高品質の日本語の姿を伝える国語教科書」という理念に基づき編修した。
「言葉の力」とは…新しい自分の発見や、未知の世界との出会いにつながる、生きる糧となる力。
「最高品質の日本語」とは…世界の中の一言語であり、歴史と伝統を持つ日本語の、多種多様な表現から厳選した、論理的明晰さや情感豊かな美しさを持つ良質な日本語。
- 上記の理念を具現化するために、本「論理国語」は、「精選 現代の国語」のテーマ（他者と出会い、自己を知る）、「精選 言語文化」のテーマ（言語文化の成り立ちを知る）を受けて、「社会と出会い、集団を知る」「世界と出会い、未来を描く」というテーマに沿って編修し、生徒は、2年次には「自分の考えを効果的に伝え共有する」、3年次には「自分の考えを伝え他者を説得する」というゴールを目指せるようにした。最終的には、高等学校における国語の学習を通して「『自分の言葉』を見つけ、『自分の言語文化』を築く」ことを目指している。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前編4・6単元 後編2・5単元	幅広い教養を身に付け、それを以て真理を求める態度を養う、という観点から、哲学や生命倫理について考えを深める教材と活動を設け、さらにそれを表現する多様な方法を学ぶことができるよう工夫した。(第1号)	84～112頁、138～156頁、 226～264頁、306～338頁
前編2・8単元 後編7単元	職業及び生活との関連が強い教材を通して、過去、現在の状況を把握し、未来への創造性を培い、かつ自主及び自律の精神を養えるよう工夫した。(第2号)	34～56頁、174～198頁、 361～402頁
前編8単元 後編4・6単元	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養う、という観点から、正義や平等について考えを深める活動を設けた。(第3号)	173～198頁、281～304 頁、339～360頁

前編 1・5 単元	生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う、という観点から、そのためにいま自分に何ができるかを考えさせる活動を設けた。(第4号)	11～32頁、113～136頁
前編 3・7 単元 後編 1・3 単元	我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、日本人としての自覚を持ちながら世界の中の日本を考え、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う、という観点から活動を設けた。(第5号)	57～82頁、157～172頁、 199～224頁、265～280頁
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-65	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
明治 117	論国 709	精選 論理国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

編修の基本方針

○全ての内容を通して、教育基本法第2条各号に示された目標及び、高等学校学習指導要領に示された目標を達成できるよう教材を選択し、配列した。

- 「言葉の力を育み、最高品質の日本語の姿を伝える国語教科書」という理念に基づき編修した。
「言葉の力」とは…新しい自分の発見や、未知の世界との出会いにつながる、生きる糧となる力。
「最高品質の日本語」とは…世界の中の一言語であり、歴史と伝統を持つ日本語の、多種多様な表現から厳選した、論理的
明晰さや情豊かな美しさを持つ良質な日本語。

○上記の理念を具現化するために、本「論理国語」は、「精選 現代の国語」のテーマ（他者と出会い、自己を知る）、「精選 言語文化」のテーマ（言語文化の成り立ちを知る）を受けて、「社会と出会い、集団を知る」「世界と出会い、未来を描く」というテーマに沿って編修し、生徒は、2年次には「自分の考えを効果的に伝え共有する」、3年次には「自分の考えを伝え他者を説得する」というゴールを目指せるようにした。最終的には、高等学校における国語の学習を通して「『自分の言葉』を見つけ、『自分の言語文化』を築く」ことを目指している。

単元の構成

- 単元の構成は、領域別、テーマ別とした。また、2年次、3年次での使用を想定して、前編・後編の2部構成とした。学習が系統的かつ具体的に行われることを意図したものである。
○単元の配列に当たっては、「A書くこと」「B読むこと」の各領域を、生徒の興味喚起と学習到達度を考慮して、発展的、系統的に学習できるように配列した。
○教材は、論理的な文章については編修の基本方針に基づき、「現代の国語」「言語文化」の学習を鑑みて精選した。各種の文章の中から獲得すべき価値を多く有しているものを幅広く選んだ。実用的な文章については、論理的な文章との関係において適宜配置した。

【知識及び技能】

- 「深い学びのために」の主に「言葉と表現」で、言葉の特徴や使い方に関する問題を設けた。
○情報の扱い方に関して、「単元の言語活動」の要点や図解に入れ込み、言語活動を通して具体的に理解し、定着を図るよう工夫した。
○前編後編それぞれに2箇所ずつ、論理的な文章に関連した「読書のすすめ」を掲げ、読書の意義と効用について理解を深める助けとした。

【思考力・判断力・表現力等】

- 「A書くこと」「B読むこと」については、「深い学びのために」の主に「学習のポイント」と「言語活動」、各単元のまとめとなる「単元の言語活動」で、学習指導要領に示された「言語活動例」に即して、「2. 対照表」に示した実践的、かつ探究的な活動を設けた。その際、【知識及び技能】との関連を図れるよう配慮した。
○言語活動は、年間を通じて系統的に学習効果が高められるよう配慮した。各教材での言語活動は具体的に指導できるようにし、単元のまとめである「単元の言語活動」では、単元内の全ての教材で学んだことを活用した課題を設定した。さらに、「単元の言語活動」での学習過程を、同じ領域の次の単元でも繰り返し、自ら改善することで、それらの能力の習熟向上を図った。また、言語活動ではグループ活動やクラスメートとの相互評価等の、対話を使った活動を積極的に設けた。
○「表現の窓」を「A書くこと」領域で、「論理の窓」を「B読むこと」領域で設け、活動の助けとした。また、図版の活用も想定している。

【学びに向かう力・人間性等】

- 「学ぶに向かう力」自ら学び続ける工夫
1) たしかに学ぶ
○「領域別教材一覧」を設け、何をどのように学ぶのか、どんな力が身につくのかを明示した。見通しをもった学習計画づくりに資する。
○「単元扉」では、単元のねらいだけではなく、領域ごとの段階的な学びを示した。この単元の言語活動はどのような観点で取り組むのかを指導者と生徒が共有できるように工夫した。
○以上2点は、学習を見通すだけでなく、学習を振り返る際にも役立つものである。
2) 学びを深める
○「単元の言語活動」は、PDCAを基本として展開している。目標の提示から評価までの過程を具体的に示すとともに、指導の重点を下段で明示している。
3) 知識・技能を生かす
○「表現の窓」「論理の窓」は各指導事項の段階に沿って、学習活動を進めるうえで必要になる知識・技能に対する理解を助け、言語活動で生かせるようにした。

以上の【知識及び技能】【思考力・判断力・表現力等】【学びに向かう力・人間性等】の習得を支援することにより、現代社会を生きるために必要な資質・能力を確実に育成できる教科書である。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容					該当箇所	配当時数		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					内容の取扱い
		(1)・(2)	(3)	A 書くこと	B 読むこと	(3)				
						A	B			
図版 『アフラシアを中心とする世界』 「世界の人口分布のツリーマップ」『松 林図屏風』『笛声交響水雲間』 「文字の Cか？三日月か？」		(1)						見返し1~3		
		(2)								
1 世界・ 地域	二一〇〇年の世界地図	(1)		ア				P. 12~19	2	
		(2)	イ		エ					
	「流域地図」の作り方	(1)	イ	ア				P. 20~29	2	
		(2)			ア					
「自分の主張を立てよう」	(1)	ア		ア			P. 30~32	2		
	(2)			ア						
2 社会行 動	行動変容を起こす有効な方法	(1)		エ		イ		P. 34~41	2	
		(2)				イ				
	「家族の幸せ」の経済学	(1)		ア			イ	P. 42~50	2	
		(2)	ア				イ			
「構成を把握しよう」	(1)					イ	P. 51~56	2		
	(2)	ア				ア				
3 日本文 化	「間」の感覚	(1)		エ		ウ		P. 58~68	3	
		(2)				イ				
	日本文化の雑種性	(1)		ア			ウ	P. 69~78	2	
		(2)	ア				イ			
「さまざまな立場を想定し て論を展開させよう」	(1)		エ			ウ	P. 79~82	3		
	(2)					イ				
4 哲学・ 認知	猫は後悔するか	(1)		ウ		ウ		P. 84~93	3	
		(2)				ア				
	学びとは何か	(1)		ア			ウ	P. 94~101	2	
		(2)	ア				ウ			
生命倫理と自由	(1)		ア			ウ	P. 102~110	2		
	(2)	ア				オ				
「根拠を検討しよう」	(1)	イ				ウ	P. 111~112	3		
	(2)					ウ				
5 環境・ 科学	なぜ科学を学ぶのか	(1)		ア		エ		P. 114~124	3	
		(2)		ウ			ア			
	人類による環境への影響	(1)		ア			エ	P. 125~133	2	
		(2)	ウ				ウ			
「多角的に評価しよう」	(1)	イ				エ	P. 134~136	3		
	(2)					イ				
6 技術・ 規範	いのちのかたち	(1)		ア		オ		P. 138~147	2	
		(2)	イ		ア					
	AIと憲法的価値	(1)		ア			オ	P. 148~153	2	
		(2)	イ		ア					
「総合的に推敲しよう」	(1)	ウ				オ	P. 154~156	3		
	(2)					エ				
7 芸術	水墨画入門	(1)	ア	ア		オ		P. 158~163	2	
		(2)				エ				
	石上私淑言	(1)		エ	ア		オ	ア	P. 167~170	2
		(2)					ア			
「比較読みをしよう」	(1)	ア				オ	P. 164~166, 171~172	4		
	(2)					エ				
8 経済・ 資本	熱帯の贈与論	(1)		ア		カ		P. 174~181	2	
		(2)	ア			イ				
	貨幣は言葉である	(1)		ア			カ	P. 182~188	2	
		(2)	ア				ア			
「文章の内容と自分の考え を戦わせよう」	(1)					カ	P. 189~198	4		
	(2)	ア				エ				
1 都市・ 建築	近代都市のレトリック	(1)		エ	ア			P. 200~207	2	
		(2)				ア				
	変われ！ 東京	(1)		ウ	ア		ア	P. 208~215	2	
		(2)					ア			
送辞存義序	(1)					ア	ア	P. 216~217	2	
	(2)	ア				ア				
「要旨を把握しよう」	(1)		エ			ア	P. 218~224	4		
	(2)					ア				
2 メディ ア	イメージの時代と文化産業	(1)		ア	イ			P. 226~238	4	
		(2)		ウ		イ				
	視覚の生命力	(1)	ア	ア		イ		P. 239~246	2	
		(2)				ウ				
多様化するメディア・ツ ールと子ども	(1)		ア		イ		P. 247~259	4		
	(2)		ウ		イ					
「主張を支えるデータをそ ろえよう」	(1)				イ		P. 260~264	5		
	(2)		ウ		イ					

3 歴史	歴史を哲学する	(1)	イ	ア		エ		P. 266～272		2	
		(2)					エ				
	「多角的に評価しよう」	(1)	イ			エ		P. 273～280		4	
		(2)					エ				
4 社会・体験	語りと実在のつながり	(1)		ア			オ		P. 282～293	3	
		(2)	ウ			イ					
	現代社会における物語	(1)		ア			オ		P. 294～300	2	
		(2)	ウ			イ					
	「比較読みをしよう」	(1)					オ		P. 301～304	4	
		(2)	ウ				エ				
5 言語	記号論への招待	(1)		ア		エ		P. 306～315		3	
		(2)	ウ		ウ						
	消えゆく言語・方言を守るには	(1)	イ	ア			エ		P. 316～324	2	
		(2)				ウ					
	段落論	(1)	ウ	ア			エ		P. 325～334	2	
		(2)				イ					
「多角的に吟味し論を固めよう」	(1)	エ				エ		P. 335～338	4		
	(2)				イ						
6 平等・制度	憲法への招待	(1)		ア			キ		P. 340～347	3	
		(2)	ア				オ				
	デモクラシーと平等	(1)	イ	ア				キ	P. 348～356	3	
		(2)					イ				
	「情報を取り込もう」	(1)						キ	P. 357～360	3	
		(2)	ア				エ				
7 近代・現代	私の個人主義	(1)	ア	ア		カ		P. 362～378	6		
		(2)				ウ					
	「である」ことと「する」こと	(1)		ア			カ		P. 379～397	8	
		(2)	イ	ア	ア						
	「論を見直して完成度を高めよう」	(1)	ア				カ		P. 398～402	5	
		(2)					エ				
付録	日本近・現代文学史年表	(1)						P. 404～416			
		(2)									
	探究的な学習	(1)							P. 417～424		
		(2)									
	学術論文	(1)							見返し4～5		
		(2)									
									領域別計	55	85
									計	140	

「4 内容の取扱い」については、関連する教材全体をとおして、対応するよう配慮し、とりわけ、(3)アの古典における論理的な文章についてのみ記入した。